

总市志表

8163 (清)

俳諧資料カード

年代 文政十

编者 (筆者) 花屋

书名 花屋令集

備考

(下垣内蔵)



手のしるしを二番
右百韻一頃

那石布ま

くわらうのふのち
くわらうのふのち
くわらうのふのち

之がしるしをくふ
乃唐乃くまを思
ひやりや

る布まのく一延
とむきま
内海屋と

若菜

梅

おき梅を

おき日のあまきうつむきうふ

おき火物のあらしうのふ

おきくたをばいれす梅の上

おきおれ梅のしるしを

おきおれ梅のしるしを

おきおれ梅のしるしを

おきおれ梅のしるしを

おきおれ梅のしるしを

おきおれ梅のしるしを

おきおれ梅のしるしを

おきおれ梅のしるしを

白
點
山

左
楚
山

大
柳
資

三
霞

呂
洞

春
漣

其
智

春
美

重
運

女
人

馬
雪

旅の乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

乃きまの風
乃きまの風
乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅の乃きまの風

梅
里

梅
楠

梅
居

梅
石

梅
壺

梅
因

梅
帆

梅
爨

梅
亮

持えのりて
おのりて
ふのりて
まは

枕二 吾風華

お車 里お車

蕉風 ね丸華

あつて

又人の心もあつて

ちほつて

家山

あつてあつて

あつてあつて

其督

村

村の中を

其樂

あつてあつて

あつて

あつてあつて

あつて

あつてあつて

あつてあつて

あつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

其督

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

其樂

春好

其樂

其樂

其樂

其樂

其樂

其樂

其樂

其樂

其樂

藤原不抄の
くぬねし
成

ぬき勝を
抄くくくくく
ちしん

産名 諸島
日枝の心
つとむ

多阿乃もほりて
まのうす
まを

ほりてはふ
あはふやも葉
のやゆは小抄
伯耆一二

つとむを
ゆきゆきゆき
ゆきゆきゆき
ゆきゆきゆき
ゆきゆきゆき

や友村やうで
お国の灯や
笑をとりま
まは

あはくや
まは
二鶴
一札

あはくや
まは
来集

あはくや
まは
梅園

あはくや
まは
芝峠

あはくや
まは
杉山

あはくや
まは
春美

あはくや
まは
春好

あはくや
まは
杉山

あはくや
まは
春美

あはくや
まは
春好

あはくや
まは
杉山

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは

あはくや
まは
あはくや
まは



お取

敷

餘寒

頃還

春雪

くさくさとおとすおとすおとす

かたわりのおとすおとすおとす

かぬ入りのおとすおとすおとす

さぬりのおとすおとすおとす

踏のおとすおとすおとす

踏のおとすおとすおとす

林のおとすおとすおとす

頃還のおとすおとすおとす

春雪のおとすおとすおとす

林のおとすおとすおとす

さぬりのおとすおとすおとす

お取

敷

梅園

二鶴

六外

其楽

梅里

春人

傳中

忠福

露亦

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

仙舟

里丸

蹄郭

子雄

石原

奇洲

延史

玉谷

文衣

五鼎

美六

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

おとすおとすおとす

とあはれいしすむゆふ分ち
鳳尾

は貝く思ふにけりすかたき
可北

かへすまの白きまのあはれ
詩帆

塔はよしむすかたき
良雅

於し乃杖まのりより霞に
枇杷

おぼすむかひの言ふ心物
二鶴

史挿たる日ふすむかひ
打美

はあはれいしすむゆふ分ち
奇流

のこころあはれいしすむゆふ分ち
梅輪

きあはれいしすむゆふ分ち
奇蕉

いしすむゆふ分ち
魁隣

春山
おはれいしすむゆふ分ち
柳舟

何してし船乃
省支

うらやや傍
漫く

ちのこころあはれいしすむゆふ分ち
可涼

あはれいしすむゆふ分ち
其替

永月
おはれいしすむゆふ分ち
層風

春風
おはれいしすむゆふ分ち
雪江

牛の尾もつれ
湖舟

おはれいしすむゆふ分ち
其梅

おはれいしすむゆふ分ち
鳳尾

東風
おはれいしすむゆふ分ち
雲那

羊庵

人々... 紙

春夜 春の夜は... 星譜

春夜 春の夜は... 呂調

春夜 春の夜は... 蕉和

春日 春の朝は... 素心

春日 春の朝は... 呂調

春日 春の朝は... 古光

春日 春の朝は... 土明

春日 春の朝は... 好占

春日 春の朝は... 奇流

臘月 臘月の夜は... 五辰

榜立

春の夜は... 岳峰

て榜立

春の夜は... 聖居

聖居

江戸 江戸の夜は... 其松

三月 三月の夜は... 岳峰

雛 雛の夜は... 碧涯

曲水 曲水の夜は... 井眉

江戸 江戸の夜は... 五鼎

江戸 江戸の夜は... 荷香

江戸 江戸の夜は... 養明

江戸 江戸の夜は... 二鶴

江戸 江戸の夜は... 其替

忘霜 忘霜の夜は... 五鼎

忘霜 忘霜の夜は... 聖居

一板廊中を
久押して
つゝ入るる子れぬ
顔や板乃能

下子
世草蘭

西氏如布白

あひまふいづも
能もうむ能を

奇伝

は下まゆり丸

むれち乃一つくも

空ぬほ下か

白拵板序

春暮

いささかおれ泊るもまのしゆ

伍尺

暮春

は号いり雪のちふもまれの

一色

行春

のまもほく酔えり色を

ひいてなれてしりおもひ

ゆきまを年も是くう呼く

菊思

人あしひらいてまつてまはり

松輪

あさうるま月も小は枕

春好

牛垣りまらうつらう

白龍

雜春

乙鳥

生類門

卷十六

白龍 逸人草

逸人 大推草

うひの園り

おんくーてまよふ
けりおてま土の山

下徳石
まおか

記録年頭

おれとまもくおいて
あたるまりはほ

奇洲

鶯

号をすぬおもも拍あもれ

未報

号中の戸の小葉も人乃中

青鳥

号いかりし中記てすけり

号老

うらひすりや小葉もおの人は葉

文兒

号りんくうなりぬ号乃い

方鼎

りう向て号やうしす眼をまは

三霞

号いひま高りししほゆは後

希孫

号りもまつけの海も号を

春人

念仏の御号もまてあ

号りまじぬ号りも

梅雪

号りは息すし時やれり

春好

観計 不道子存、吟うそ志、たて 観計

神釋門

伊忌 碧河乃あめるはまはは忌の種 たて 梅鶴

志忌の種あまのあまの種 たて 好古

初年 才てんれん、初年の三葉 たて 文衣

涅槃像 由社言わつは、あまのねん像 たて 杉良

あまのねん 才てんれん、初年の三葉 たて 奇伝

人丸忌 尾のちりもし、うのちり たて 曾外

ねん像、
釈也、孫てき界、
弟を、さしを、あま、
あまハ、梅里

四季並題昔句集、たて

沿革 花屋巻編

乾坤門

四月 春のふり、はるのふり たて 馬聖

日月や、はるのふり たて 二鶴

春のふり、はるのふり たて 岸吹

下りの浦や、はるのふり たて 升堂

新道まゝの、はるのふり たて 一路

おれ、はるのふり たて 之雄

大粒、はるのふり たて 嵩亭

卯月、はるのふり たて 龍丸

まはれあふ〜し〜い〜
 とはら〜と〜相〜
 てふ〜と〜や〜
 の〜
 の〜
 くら〜
 本〜

後〜

流〜つや〜まの
 子〜りぬ

二輪

〜

雪峰

雪〜日〜
 清〜
 鳥〜
 ち〜
 ち〜
 田〜
 中〜
 夕〜
 白〜
 夕〜

石堂

梅屋

元家

蕉屋

其打

奇洞

土明

馬雪

梅屋

米岡

嘉定錢



夏雨

赤水

清水

白〜
 口上〜
 白〜
 袖〜
 赤〜
 赤〜
 の〜
 お〜
 赤〜
 は〜
 り〜

杉幸

野楊

哥亭

二色

蕉屋

樂只

時階

希孫

梅屋

三吉

素前

我いふもほろりて
 牡丹の度乃るも
 ちりてはなれは
 大いなり牡丹の
 親の牡丹うら
 ちりてはなれは
 孫えと脚あき
 ちりてはなれは
 道の茶の味く丸
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは

我いふもほろりて
 牡丹の度乃るも
 ちりてはなれは
 大いなり牡丹の
 親の牡丹うら
 ちりてはなれは
 孫えと脚あき
 ちりてはなれは
 道の茶の味く丸
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは

五流
 内舟
 時智
 月蕙

法辨
 ちりてはなれは
 和辨 徳史

ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは
 ちりてはなれは

三夜
 武治
 菅去
 良雅
 系挂
 露階
 雪峰
 孤石
 松内
 出孫

西陣

織物よりちよひ百子
あやあやきほのめ
縮みしつらぬ二
葉採採ちやう
控しぬきくれも
はらわらんとも
石山巻泊
くまうららねね
あけつぬふり
いふ何も
あけつぬふり
あけつぬふり
右 壬午辰巳人
於此

白根	まきまきや甘とらきー様のもえ	位天
紅梅	おのまけ乃しは帯いさきれ海汁	子親
外花	お乃老けりけを中川をあらふ	子娘
	うけあや登りてくくくくくくくく	牡丹
	おのむ乃いふくくくくくくくく	紫
	おのむのいふくくくくくくくく	一色
栗卷	植つけー様そまうあやくくくく	名之
合歡	きくまきあ乃いふくくくくくく	賈天
桐花	袖うふのよのまきむやハヤ葉	九方金
	義の袖うららけくくくくくく	早見
榎花	久きくくくくくくくくくく	二輪

尾 廿九

古物の事をうけ
あひふりいふくく
うけー眉ひわれ
あく左用

二層はり瀑布あり
あうれの海とつら
海あふて四柱のもも
くくくく
九万石
新ま陸流
あうられの海や
くくくくくく

桐花	あくくくくくくくくくく	素流
濃雲花	あくくくくくくくくくく	一踏
麦	あくくくくくくくくくく	踏郭
	あくくくくくくくくくく	子娘
麦秋	あくくくくくくくくくく	梅輪
田植	あくくくくくくくくくく	米友
	あくくくくくくくくくく	枕守
	あくくくくくくくくくく	祇木
	あくくくくくくくくくく	雀屋
	あくくくくくくくくくく	甚楽
	あくくくくくくくくくく	三根

世のついでに
 花のついでに
 二語

花のついでに
 二語

一ふきのやうに	あはれ
女々しく	あはれ
日をも	あはれ
早苗	あはれ
羊	あはれ
初花	あはれ
初葉	あはれ
菫	あはれ
立葵	あはれ
奇洞	あはれ
東湖	あはれ
九里	あはれ
弓雄	あはれ
文衣	あはれ
好古	あはれ
子雄	あはれ
其梅	あはれ
奇伝	あはれ

花
 二



百合	あはれ	時習
紫陽花	あはれ	玉露
揚子	あはれ	牡丹
白牡丹	あはれ	宜春
常木	あはれ	花川
菖蒲	あはれ	一語
馬宮	あはれ	鳳院
馬宮	あはれ	扇道

茄苗丁香
二江
 真ノ類
 ナリトキ



若竹

竹ノ節ノ石ノ月ノ...

渡土

葉實

葉ノ實モ...

萬和

鼓表

鼓ノ表...

聖丸

夕靄

夕ノ靄...

桂舟

吐鳳

吐ノ鳳...

吐鳳

杜若

杜ノ若...

杜若

凡

凡ノ...

凡

青田

青ノ田...

青田

善得

善ノ得...

善得

麻

麻ノ...

麻

...

...

...

上ぬまの園あり
 白く野や草一色
 柳の影もまじり
 内木の陰に影
 いさみや、あかり
 づつとる流
 一色
 子親の影も
 子親の影も
 唐草

まねの月乃、しるねあり
 杜宇 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり

春好
 其棠
 其棠
 東洲
 千景
 一帆
 堆花
 批之
 柳の影
 奇は

花世記

王を
 少くも人の里
 柳の影もまじり
 奇は

布穀
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり
 子親の影もまじり
 柳の影もまじり

一色
 柳の影
 眉交
 雷師
 點心
 鳥高
 多拙
 一色

梅園 閑歩草

何處...
 杉...
 久乃...

杉...
 久乃...

海山乃... 其督

かま... 美古

行... 文衣

杉... 筆村

杉... 二杉

杉... 杉

杉... 奇

杉... 外

杉... 其督

杉... 奇

杉... 祇山



水鏡

外海

梅十

梅仁

右存

月菜

野渡

好

賃

杜

洞

方

同
四山形

紀伊有田山

造

堅五寸

横四寸

母川
同部

おん入本方の神そりあつた

南島

森うゝてあまのこむねの西

等乃あまのあやあまのい

文石

山さきよへまほしきあまの

凍ちけあまのあまのあまの

哥

合衆のものぬり果よりかん

うづらゝ山袖うづらゝあまの

鼎左

ほろりあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

相区

弁持てぬらあまのあまの

四十一

同
武藏野形

内むらお三日月あつた

四谷 紫雨

あつたあまのあまのあまの

西島

あまのあまのあまのあまの

東谷 陽泊

あまのあまのあまのあまの

登東

あまのあまのあまのあまの

あまのあまのあまのあまの

雨藪

あまのあまのあまのあまの

鶴堂

あまのあまのあまのあまの

湯泊

あまのあまのあまのあまの

西嶺

同花扇形
摸樣菊丸

う九けす乃和言えはるも寂の中
ぬの藤や露ふ蝶や世のこね新様
ふの鼓のつと一つれちりりまつた
心ありハ蝶紙くくつれよやの藤
大坂 秋花
江戸 一紙
其心
摸樣 旧く

同 右扇形
摸樣

山崎のつと一つれちりりまつた
心ありハ蝶紙くくつれよやの藤
大坂 秋花
江戸 一紙
其心
摸樣 旧く

同 大原形
堅四十八ア
摸四十八ア

下りて来た川きりり一袋の書
一ゆきすすもやきりり様の
思すもれもよき道一てきりり
枯枝や作句てあきりり
西りり布日わきりりね梅のふ
あやわくらう西あきりりふ山好ふ
大川の流れもせすきりり蛙
まのきりりねゆきりり色笑ふ
五りり雨のねきりりせてあきりり灯ふ
まゆきりり世すきりりよきりり山好ふ
六りり月や露のりりすきりり新様
大坂 秋花
江戸 一紙
其心
摸樣 旧く

外山乃り終のりすむおる中歌
 引くしらふ本一也終乃るらや
 中丸をく一終乃り終
 乃白くおるもらふて風さく
 もおく一終一終乃り終
 け終を揚はるまきも暇り
 終をそなるらふ中終の終
 終らありら終の終して声
 全くく一終のあゝ終

二人の習り終さく一終
 月ほくく一終さく一終
 おらり世さく一終さく一終
 終の終さく一終さく一終
 うけさく一終さく一終
 終の終さく一終さく一終
 終の終さく一終さく一終
 終の終さく一終さく一終
 終の終さく一終さく一終



